所属：鳥羽商船高等専門学校　一般教育科

研究タイトル：

高専生におけるバレーボールのサーブとレセプションに関する研究



氏名：	重永　貴博／Takahiro Shigenaga	E-mail：	shige@toba-cmt.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士（体育学）
所属学会・協会：	日本体育学会、バレーボール学会		
キーワード：	バレーボール、コーチング、スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野		
技術相談 提供可能技術：			

研究内容：

図１．打たれたサーブの種類別の割合

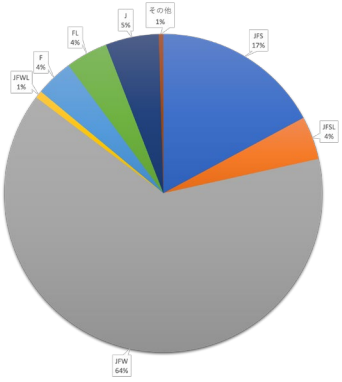


図２．レセプションの位置

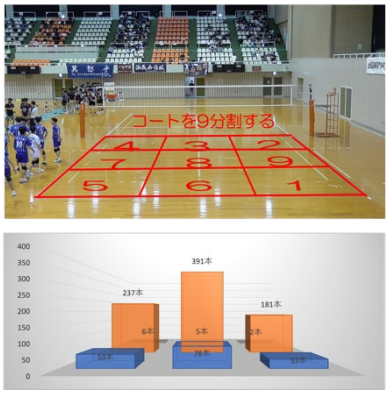
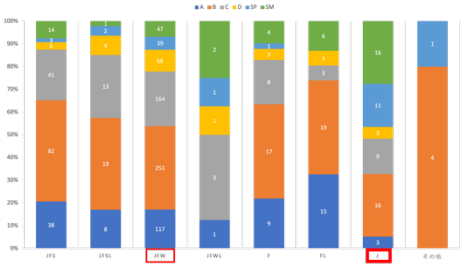


図４．サーブの種類別のパスの割合（サーブミス含む）



バレーボールの試合は、サーブで始まるラリーを征すると得点が入る。1セットを取るためには、サーブ権がある時の得点が、相手チームより多い必要がある。1点を取るために、サーブ権を持つ時は、効果的なサーブを打つことが重要であり、サーブ権がない時は、レセプション（サーブレシーブ）の成功が、その後の攻撃の効果を上げるために重要である。サーブとレセプション（サーブレシーブ）の研究は、ナショナルチーム、プロチーム、大学のトップレベルを対象としたものは数多く行われているが、高専生を対象とした研究は少ないので、本研究は令和 4 年度全国高専体育大会におけるサーブとレセプションの傾向を分析することにより、高専生を指導する時に有効な資料を得ることを目的とする。

この大会では、サーブ総数1073本の内、923本（86%）がジャンプフローターサーブであった。特に両足ジャンプのジャンプフローターサーブが全体の65%を占めた。

自チームのコートを3m四方で9分割し、それぞれの位置でのレセプションの本数をグラフ化したものが図2である。コート中央の8番の位置でのレセプションが全体の約40%、7番、8番、9番の位置での合計は、全体の約83%であった。サーブのミスを避けた結果ではないかと推測される。

サーブの種類別のパスの割合を見てみると、両足ジャンプのジャンプフローターサーブは、ジャンプをしないフローターサーブよりも A パス＋B パスの割合は低かった。最も A パス＋B パスの割合が低かったのは、ジャンプドライブサーブであった。

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	